

松島高校舎等改築設計  
公募型プロポーザル評価・選定講評

【第2段階審査の経過】

第1段階審査を通過した4者によるプレゼンテーション（ヒアリング）の実施にあたっては、各者の技術提案書の内容と表現等が実施要項、提案書作成要領及び計画概要書等に沿ったものか確認を行いました。いずれも実施要項、提案書作成要領及び計画概要書等に抵触しないことを確認した上で、4者を対象として審査を進めました。

評価・選定にあたっては、5名の委員による評価に入る前に、各者の技術提案書の内容についてあらかじめ順にレビュー（振り返り）した後に評価に移りました。評価は、あらかじめ設定された評価項目ごとに5段階の評価点数を記入するもので、全員が記入後、事務局で回収し集計を行い、その結果を各委員に配布して審議を行いました。

なお、第1段階での評価点はそのまま持ち越し満点30点として換算、第2段階（技術提案書・ヒアリング）の評価点（満点70点）とあわせて100点満点で総計点をまとめました。

あらかじめ公表している評価・選定基準に基づき、順位付けを行い、その結果をもとに審議をすることとしました。順位付けの方法は以下の通りです。

- ① 総合評価点順位の1位獲得数がより多い提案者を上位として順位付けを行う。
- ② 1位獲得数が同じ提案者が複数いる場合は、各委員の順位点の合計がより高い提案者を上位とする。
- ③ 順位点の合計も同じ場合は、上位順位の獲得数がより多い提案者を上位とする。
- ④ ②③も同じ場合は、総合評価点の合計がより高い提案者を上位とする。
- ⑤ ①から④までの順位を基に委員で審議の上、設計候補者及び次点設計候補者を選定する。
- ⑥ ただし、『業務実施方針及び手法』の評価項目で各委員の評価点の平均が42点未満である提案者は、審議の対象としない。

集計の結果、各委員の評価点平均が42点未満の提案はなかったことから、4者を審議の対象としました。

評価・選定基準に基づき順位付けを行った結果、上位2者が「総合評価点順位の1位獲得数」、「各委員の順位点の合計」が並び、「総合評価点順位の2位獲得数」で1票差の僅差でした。設計候補者の選定にあたっては、各委員の評価結果（点数の付け方、順位付けの判断）、評価の観点及び提案に対する見解について意見交換を行った結果、「総合評価点順位の2位獲得数がより多い提案者」を設計候補者として選定することが妥当であることを全員一致で確認しました。

以上から、「総合評価点順位の1位獲得数がより多い提案者」、「各委員の順位点の合計がより高い提案者」である上位2者のうち、「総合評価点順位の2位獲得数がより多い提案者」である株式会社楠山設計を設計候補者とし、株式会社教育施設研究所東北事務所を次点設計候補者とする事で合意しました。

#### 【総評】

本プロポーザルは、県内有数の観光地松島に立地する松島高校の地域の特色を活かした魅力的な学習環境の整備を目的として、老朽化した校舎等の改築設計業務に適した設計候補者を選定するものでした。提案にあたっては、県内唯一の観光科の特徴を踏まえた上で効果的な学習環境の整備や周辺の住環境を考慮した建築計画がポイントとなりました。

ヒアリングに関しては、管理部門の位置を考慮した上での昇降口の位置の検討や、普通教室と特別教室の特性を活かしたコモンスペースの計画等、各者丁寧にまとめられており、業務実施方針に係る説明においては、松島高の設計に対する積極性も大変強く感じられました。観光科の特徴を活かすためどのように建築的に表現するかが難しいポイントでありましたが、各者からこれまでの設計業務の経験を踏まえた多様な提案をいただき、大変工夫が感じられるものでありました。

今回の松島高校校舎等の改築は、「効率的・効果的な施設整備の推進（校舎改築等の計画的推進）」の高校教育改革の取組のひとつである教育環境の改善を図るため、また、現在の校舎が昭和40年から昭和57年に建築されたものであり、校舎の老朽化が著しいことから行われるものです。新たな校舎の整備により、生徒・教職員の安全を確保するとともに、魅力的な学習環境の整備による学習意欲の向上を図り、生徒自ら学ぶ意欲と能力を高め、自律の精神をもった人材育成の場となることを大いに期待いたします。

最後に、多大な労力と時間をかけて、課題に真摯に向き合い提案をされた株式会社関・空間設計、株式会社教育施設研究所東北事務所、株式会社昭和設計仙台事務所及び株式会社楠山設計の皆様には、判定委員会委員一同、心からの感謝を申し上げます。

#### 【講評】

設計候補者：株式会社楠山設計

配置計画では、用途ごとに明確なエリア分けを行い、利用者に分かりやすい動線計画に配慮していることが特徴的でした。管理・教室部分を3階建てとし、南側に武道場を分けて配置することで既存部室との距離を近くすると共に、全体を比較的低層に抑えつつ普通教室と周辺住宅との距離を確保することで住環境やプライバシーに配慮しているところが評価されました。また、生徒活動の拠点となる「おもてなしホール」に近接して観光科の関連教室を設け、来訪者との交流の場と実習を行うスペースを重ねたおもてなしエリアの形成、

「おもてなしホール」から繋がりを持たせたランチルームや松高ガーデンの多様性にも期待が持てるものでした。

ヒアリングでは、利用者や近隣住民等との対話型での設計提案、品質・コスト管理、スケジューリング管理等、今後設計を進める上での柔軟性も感じられ、円滑な協議・設計に繋がることが期待される点も評価されました。

一方で、建物の中央に外部に面していない無窓の居室が配置されている点や「おもてなしホール」等の共用スペースの適切な規模の設定について、今後の設計過程でより丁寧に学校関係者と協議・検討する必要性なども確認いたしました。

以上を踏まえて、設計者選定というプロポーザルの主旨から、十分に資質があるものと判断して選定しました。県内唯一の観光科がある学校の特色を活かしつつ、利用者や地域にとって重要な役割を担い、大切にされる施設となるよう、関係者の声を丁寧に拾い、真摯に設計に向き合うことを強く期待いたします。

次点設計候補者：株式会社教育施設研究所 東北事務所

学校建築のスペシャリストとして、実績を活かしたユニバーサルデザインへの配慮や利用しやすい配置・動線計画に対する提案力が優れており、また、支援チーム等のバックアップも整っていることから、組織体制も高く評価されました。平面計画では、整形で全体的にまとまりがあり、回遊廊下による利用しやすい動線計画となっていること、中庭を介した採光により屋内空間を全体的に明るくすることや、昇降口からエントランスホールの吹き抜けの空間構成も大変魅力的な提案でした。また、完成から20年後のカリキュラムや生徒数等の教育環境の変化に対する柔軟性も期待される計画となっている部分も評価されました。

一方で、武道場と視聴覚室を4階に配置し、比較的高さのある校舎となっており、近隣の住居への配慮という点で、環境に対する調和を懸念する意見もありました。

以上のような、まとまりのある平面構成が評価されましたが、観光科の特色に配慮した空間形成や武道場の配置計画における工夫という点において僅かに及ばず、次点となりました。

令和5年2月17日

松島高校舎等改築設計  
公募型プロポーザル判定委員会  
会長 石井 敏